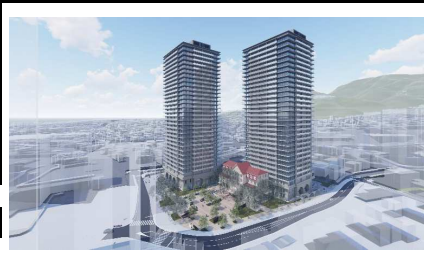


# CASBEE<sup>®</sup>-建築(新築)

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)宝塚ホテル跡地計画	階数	地上32F
建設地	兵庫県宝塚市梅野町65番1	構造	RC造
用途地域	商業地域、法22条地域、山麓部市街地地域、観光フロムナード地域、中心市街地地域	平均居住人員	1,643 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	物販店、病院、集合住宅、等	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年3月 予定	評価の実施日	2022年1月25日
敷地面積	9,808 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社 竹中工務店 立本 良
建築面積	3,926 m <sup>2</sup>	確認日	2022年1月25日
延床面積	72,796 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社 竹中工務店 立本 良



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.9**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%  
②建築物の取組み 74%  
③上記+②以外の 74%  
④上記+ 74%

(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.3**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.8

**LR のスコア = 3.8**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項		
総合 歴史豊かな文化・立地・風景を受け継ぐ宝塚らしい上品なライフスタイルを次世代に伝える計画とした。		その他 電源自立型GHPエクセルプラスやマイクロコジェネを採用して災害時の防災システム・BCP対策に配慮した。
<b>Q1 室内環境</b> F☆☆☆の建材を使用して室内環境に配慮した。住戸の外気性能を断熱等性能等級 等級4を超える「UA=0.6以下」を確保して温熱環境を向上させた。	<b>Q2 サービス性能</b> Gbitクラスのインターネットに対応し、住宅で3.0m以上の階高として機能性と更新性のある空間とした。劣化対策等級3、免震建築物として耐震性・耐用年数にも配慮した。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 敷地内の緑化を多く確保し、施設棟で旧宝塚ホテルの外観を再現して歴史性を継承するデザインとした。防犯カメラの設置により防犯性にも配慮した。
<b>LR1 エネルギー</b> 断熱等性能等級 等級4を超える性能を確保して建物外皮の熱負荷抑制に配慮し、LED照明やエネファームなどの高効率設備の採用により設備システムの高効率化を行い、マイクロコジェネによるエネルギーモニタを行った。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 節水型便器で水資源保護に配慮し、パーティクルボードや再生クラッシュランなどリサイクル材を使用することで、非再生材料の使用量削減に努めた。	<b>LR3 敷地外環境</b> 省エネ性能によりライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出量を抑制し地球温暖化へ配慮した。また、光害の抑制により、周辺環境へ配慮した。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される